

# 「願い」

伊禮奈津子

工事を着工する前の式典として、「地鎮祭」「起工式」「安全祈願祭」があります。式典は、神式、仏式やその他の神事(宗教)によって儀式は違います。「地鎮祭」は、大地の守護神・土地の氏神様を祭り、「起工式」は、工匠の守護神・土地の氏神様を祭る。「安全祈願祭」は、工事の安全を祈願する祭りになります。内容は、ほぼ同じだと思います。最近では、簡略化で済ませることも多くなりました。建築工事には、多くの工種に多くの人々が関わり円滑に進めていく中で「安全第一」が携わる者の願いです。2016年12月吉日、親富祖氏共同住宅新築工事の地鎮祭が神式によって行われました。8月中旬の完成に向けて気を引き締めた時間でもありました。



↑外観パース ↓内観パース

## ～神事式次第～

●開式之辞→●修祓(起立して頭を下げ祓いを受けます)→●降神之儀(神様を迎えます)→●献饌(お供えの儀式)→●祝詞奏上(頭を深く下げ神様を敬い願いを捧げます)→●清祓之儀(敷地の四方を祓います)→●鍬入之儀(工事着工を伝えます)→●玉串奉奠(玉串とは焼香にあたり神様に思いを捧げます)→●撤饌(お供え物を下げます)→●昇神之儀(お帰りの儀式)→●閉式之儀



●清祓之儀(きよめはらいのぎ) ●鍬入之儀(くわいれのぎ) ●玉串奉奠(たまぐしほうてん)

# 2016年の建築業界を振り返って

喜名 英之

あけましておめでとうございます。これだけ暖かい(暑い?)正月も記憶にないですね。さて、昨年の建築に関する話題は新国立競技場と豊洲新市場ではないでしょうか。新国立競技場は国際コンペ(コンクール)でザハ・ハディド案が決まったにも関わらず、施工費の問題で再コンペになり、最終的に隈研吾氏を中心とする共同企業体に決まりました。また、豊洲新市場は日建設という設計事務所が担当し完成しているにも関わらず今だに移転できて

いません。ザハ・ハディド氏についても日建設についても名前を通った超一流の建築家、建築家集団です。ザハ氏はコンペ当選、基本設計を受注したにも関わらず実施設計を受注できませんでしたし、日建設は完成後、地下水問題を指摘されています。諸事情もあるでしょうが、どこかに何らかの落ち度があったと思われる。私たちが過去に設計は終了していても現実に建っていない物件もあります。理由はさまざまですが、設計者として私たちが担う説明責任、情報共有、発注者の意図の把握、それと社会に対する影響の大きさを再認識し、責任の重さを痛感する事案でした。



発行所/(有)桜設計工房  
所在地/那覇市港町2-7-7  
みなと277 4F  
電話/098(867)5987  
FAX/098(863)7690  
E-mail:info@sakura39.biz  
http://www.sakura39.biz  
発行人/松川清伯

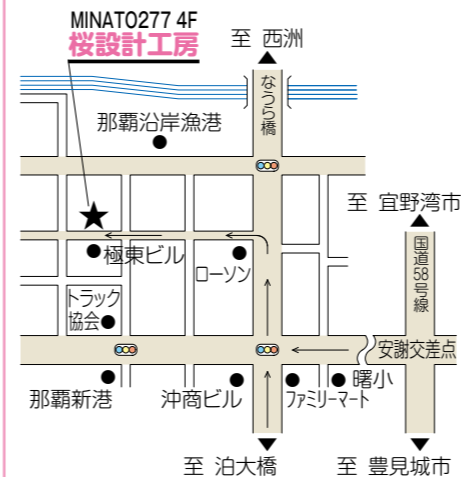
営業所/西原町小波津233-16  
電話/098(946)5066  
FAX/098(863)7690

創業/昭和61年7月1日

## 営業種目

- \*建築企画設計・監理業務
- \*特殊建築物等調査・検査報告
- \*耐力度調査
- \*耐震診断・改修設計監理業務
- \*補償コンサルタント業務

企業理念=私達は、誇り、使命感を持って顧客の信頼を第一とします。その上で人と自然が共存し、豊かな地球環境を創造して社会の発展に貢献します。さらに建築設計を通して感動、満足、安心を与え、明日への夢と希望を提供します。



# 新年の抱負

(有)桜設計工房  
代表取締役会長 松川清伯

謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中は格別のご厚情とお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

今年の干支は「丁酉(ひのと・とり)」です。ネットで検索すると「果実が極限まで熟した状態」といわれ、商売繁盛につながると考えられています。

弊社は、昨年創業30周年を迎えました。これも偏に皆さまのお力添えのおかげと感謝しています。

さて、沖縄県土木建築部施設建築課では、平成28年度より設計発注の効率化や成果品の品質向上などを図る目的で総合評価点を試行的に導入しましたが、次年度より本格運用の予定です。

弊社では昨年9月から業務拡大などを目指して資格者を増員し、総合評価点で概ね3段階に格付けされる際に第1ランクに格付けされる見通しであります。

そして年頭にあたり今年の経営計画を社員に周知し一丸となって目標達成を目指します。

また、今年の県内経済については、専門家は住宅建設の需要や公共工事もモノレールの延伸工事などで堅調を維持して拡大基調とコメントしています。ただ、一部業界では雇用面での人手不足が慢性化しており、昨今の建築コストの高騰も懸念材料であります。求人には非正規社員が多く、最低賃金は全国ワーストと指摘され、雇用の質をどう改善するかが課題ともいわれます。

景気が好調に持続するもうひとつの理由は、2020年供用開始予定のMICE(M:企業の会議・社員研修、I:企業の社員表彰の報奨・招待旅行、C:国際会議等、E:展示会・各種イベント)施設などをフルに活用し、アジアを軸に経済交流をさらに広げることへの期待があることです。何とぞ、変わらぬご支援をお願いする次第です。

本年も宜しくお願い申し上げます。



後列左より、渡辺信介、仲宗根正純、島正道、野原智子、上原麗奈、伊禮奈津子、崎原利克  
前列左より、喜名英之、松川清伯、大城哲男



# 「県民の森」見参!

島 正道

今回は、恩納村熱田岳の丘陵地帯に位置する「県民の森」を紹介いたします! 広大な自然林の中で、遊歩道を利用した山登りや自然探索、スポーツ、キャンプ、パークゴルフ、その他の野外活動が満喫できるそうです。

北部へのドライブの途中に立ち寄った公園ですが、これまで紹介してきた公園のなかで広さでは群を抜いていました。人が少ない時期に訪れたので、次回は春先か夏に行楽客でにぎわいのある季節に訪れたいと思いました!



ローラーすべり台もあり、グラススキーも出来るそうです!



キャンプ場の受付はこちらで!



ターザンロープもあります!

# 2017 明けましておめでとうございます

崎原 利克

1月1日は自転車に乗って南城市の「知念岬公園」へ5人で向かいました。朝6時に出発し7時15分の日出に間に合わせようと急いで走っていたのですが、次男が途中で疲れてスピードダウン…。

このペースではみんな間に合わないと判断し二手に分かれることにしたのですが岬公園への道は凄い人出で大渋滞、時間的にも余裕が無いことから急遽「あざまサンサンビーチ」へ目的地を変更しました。

私たちから遅れること15分、次男も無事到着しみんな揃って初日の出を拝むことができました。

あいにく雲が多くて綺麗には



見えす少し残念でしたが、今年一年良い年になりますように。



# 「フライアッシュコンクリート」

野原 智子



あけましておめでとうございます。暖かく穏やかなお正月でしたね。良い年となりますように。

さて今年もスタートしましたが、昨年後半から取り掛かり始めた物件では、有難いことにお施主さんのご要望で初めてフライアッシュを使うチャンスが持てそうです。コンクリート用混和材のひとつで言葉はどこかで聞いていても実際使用する機会がなければ深く調べることがないので、この機会にしっかり勉強したいと思います。

詳細を記述することは難しいので さわりだけネット情報を拝借させていただくと、フライアッシュとは

火力発電所から副産される石炭灰の一部です。セメントとポゾラン反応を起こし硬化する特性を持ち、コンクリートに混入して使用すると流動性が高まり、単位水量を減少でき、水和熱が低減できる。となっています。簡単にいえば化学反応により表面が滑らかで美しく緻密なコンクリートとなり、強度増進を長期にわたり期待できる『高耐久コンクリート』、さらに産廃となっている材料を利用するという事で『エコ』である。という事かな?と・・・

沖縄は、高温・多湿の環境及び厳しい塩害環境下にあるため、コンクリートの劣化が比較的早い。また、環境問題への取り組みが重要な課題となった現代は循環型社会システムの構築が早急に求められている。そういったことから考えると、これからもっと利用が増えていく材料の一つとなるのでは・・・。実際、県内でも公共、民間、土木工事の分野における施工事例も増えてきているようですので、あと数年で価格も落ち着いてくるのではと期待したいと思います。

# 明けました★2017年酉年★

上原 麗奈

新年あけましておめでとうございます。その台詞…つい先日も言ったような錯覚に陥るぐらい一年が終わるのが本当に早く感じてしまいます。ああ・・・歳のせいかな…いえいえ、それはきっと歳のせいなんかではありません! 充実した日々を過ごしていたからなのでしょう^^

私事ではありますが暮れの慌ただしい時期に無事に引越しを終えました。大型スーパーやコンビニが近くにある利便の良い閑静な住宅街です。職場も

ぐっと近くなり新しい環境で新しい年を迎えることができ本当に嬉しく思います。ところで、我が社には有難いことに毎年様々な種類のカレンダーをいただくのですが眺めていると、ある法則があることに気がつきました。今年は11月以外に週の中日に公休日がないのです。公休日がある月はすべてにおいて連休になるのです。これってすごい発見?(笑)



2017年! 皆様に素晴らしい出来事が雪崩の如く訪れますように…今年もよろしくお祈りします☆彡

# 「沖縄の賃貸共同住宅」

大城 哲男

新居へ引っ越してから早いもので1年が経過しました。区画整理エリアである周辺の土地にもだいた建物が建ち並び、区画整理事業が進捗してきたように思われる。商業施設、戸建住宅、賃貸共同住宅等と用途は様々ですが、一際、目を引くのが「賃貸共同住宅」である。

新築「賃貸共同住宅」がかなりの棟数建ち並び。人気のある区画整理エリアであり、すぐに入居者が決まりほぼ空き室はない。一方、区画整理エリア外の既存集落に目を向けてみると、築年数の古い棟に空き室がちらほら。

このエリアに限らず、県内において同じような傾向があると聞きます。沖縄県内では上場企業が少なくことから、株式投資があまり浸透しておらず、不動産以外にめぼしい投資先がないことも要因としてあるようですが、それにしても、まだまだ需要はあるのかと危惧してしまいます。

貸家空き室比率は10%程度で全国の数値に比べると大分低いと聞く。持ち家比率52%程度で全国45位(47都道府県中)、借家比率47%程度で全国2位、出生率は全国1位などが要因だと考えられます。

県内における「賃貸住宅建設」のピークは3~4年後であろうとする記事を目にしたことがある。我々の会社経営にも直結する話題であり、動向に注視しながら業務運営をしなければならないと考えている。